



とみ やま つき こ
富山 月子さん

青森市生まれ。
1986年弘前大学医学部卒業。2005年12月内科おひさまクリニック院長。
日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医、日本禁煙学会専門医、医学博士。

自覚症状が無いままに進行する「糖尿病」の合併症。

血糖値が高くてほとんど自覚症状がないため、合併症が進行して初めて糖尿病に気付くケースも多くあります。じわじわとしのび寄り、自分でも気付かないうちに全身をむしばんでいく恐ろしい病気。血糖値が高い状態が何年も続くと、目や腎臓、手足などの細い血管がもろくなり、「糖尿病の三大合併症」とされる網膜症、腎症、神経障害を発症させ、さらには、動脈硬化を加速させます。

神経障害

なんとなく足先や手先のしびれや麻痺した感覚、顔面神経の感覚が鈍い感じがする。

合併症のなかでも比較的早く起こる症状です。細い神経が先に障害を受けるので、最初の症状として、足指や足底に違和感を覚えるようになります。また、けがや低温やけどをしても、足の感覚が鈍いせいで気付かずに治療が遅れ、靴擦れ、タコやマメ、水虫など小さな傷から感染・化膿し、壊疽が起る場合も。程度によっては足の切断に至る場合もあります。

※組織が腐り、死んでしまうこと



腎症

足のむくみ、身体がなんとなくだるい、息苦しい感じがする。

腎臓の細い血管が障害を受け、身体の中の老廃物をろ過する機能が低下し、起こる病気です。初めは自覚症状がなく、むくみなどの症状に気付く頃には、かなり進行しているケースがほとんど。腎症が進行すると人工透析が必要になり、年間1万人以上が人工透析を受けているのも事実です。そこまで悪化した腎症になると、元の身体に戻すことができないため、その前に食い止めることが重要です。



網膜症

目がかすむ、なんとなく見えにくい、視力低下や視界範囲が狭い感じがする。

高血糖によって網膜の細い血管に障害が起こります。目の奥にある眼底と呼ばれる網膜が出血したり、詰まったりして視力低下を起します。しかし、なかには視力が低下しない人もいるため治療が遅れ、ある日突然、目が見えなくなってしまうに至ることもあります。たとえ健診の眼底検査で正常だった場合でも、糖尿病と診断されたら必ず眼科を受診し、視力が低下する前に治療を行うことが重要です。



動脈硬化

動脈が詰まると命の危険に！
糖尿病は動脈硬化も加速させます

正常より血糖値が少し高い状態でも、それが長く続くと動脈硬化が進行していきます。動脈硬化とは、もともと弾力のある動脈の壁がだんだん硬くなり、そこにコレステロールなどが溜まって血管が狭くなり、最終的には動脈が詰まってしまふ病気です。



糖尿病の早期発見・早期治療が合併症を防ぎます。

糖尿病を予防するには、自覚症状がないからこそ、まずは、定期健診を受けること。「糖尿病の疑いあり」と診断されたら、自覚症状がなくても、早期に医療機関を受診しましょう。

2月

特集関連番組
放送予定

放送局	番組名	放送日時
青森放送	大好き、青森県。	2月17日(日) 17:00~17:15
青森テレビ	みんなの県庁!	2月23日(土) 16:55~17:00
青森朝日放送	メッセージ	2月9日(土) 9:30~9:35
		2月16日(土) 9:30~9:35

[2~5ページの特集記事に関する問い合わせ先] がん・生活習慣病対策課 ☎017-734-9212